

愛隣館研修センターニュース

〒612-8141 京都市伏見区向島二ノ丸町 151 Tel:075-621-3849 Fax:075-621-1579

E-mail:airinday@sunny.ocn.ne.jp http://www.airinkan.net 振替:01020-5-39321

編集発行所:社会福祉法人イエス団 愛隣館研修センター 発行責任者:平田 義

94号

「平和」について考えるとき

戦後70年を迎える年に、政府は「戦争法案」とも言える「安保関連法案」を、憲法学者たちが「違憲」であるとの判断を下しているにもかかわらず、国会の会期を最大限延長してまで、数の論理で強引に押し進めようとしています。私たちはもう二度と殺すことも殺されることも拒否します。その思いを強く確信するために、あの忌まわしい戦争を体験された方からの貴重な生の声をお届けしたいと思います。向島在住でインパール作戦に従軍された川尻良雄さん(93歳)からお話をうかがいました。是非、ご一読いただき、平和をつくりだすための働きを共になしていきましょう。

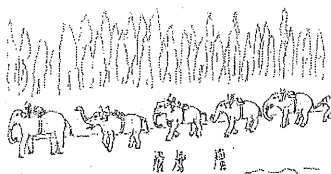
＜川尻さんのお話し＞

私は、1943年の4月に陸軍に入隊し、伏見の練兵場にて野砲兵としての訓練を受けたのち、中国に向けて出兵いたしました。しばらく中国で過ごした後、1943年の9月23日に、上海の呉淞(ウースン)港からサイゴンを目指して出港しました。途中南シナ海で暴風に遭遇し、船が大揺れだったことを覚えています。ベトナムに到着してから、メコン川を遡行し、プノンペンに向いました。その後、列車でタイに向い、そこからインパール作戦に参加するためにビルマに向いました。

1944年3月頃、ビルマ内で、トラックの荷台に乗って山の中を移動中に、トラックが横転し、深い谷に転落してしまい、その際に、梱包していた荷物の下敷きになり、左腕を骨折負傷してしまいました。怪我をしたために隊を離れ、カローの兵站病院に入院することとなりました。

1945年4月頃、病院も空襲に襲われるようになり、危険が迫ってきたために、撤退をすることとなり、日赤の看護婦さんたちはトラックでタイに向けて移動を始めました。

残された私たち負傷した兵隊たちは、重症患者は象に乗せられ、歩ける者は徒歩でタイを目指しました。途中、風光明媚なインレイ湖を船で渡り、再び、徒歩でタイを目指しました。出発当初に持っていた米も底をつき、食べられそうな雑草を食べたり、死んだ牛の肉を蛆をかき分けるようにして食べながら歩きました。途中で、体力が尽きた仲間が一人減り、二人減りと



重傷者や病者、死んだ牛の肉を蛆をかき分けるようにして食べながら歩きました。

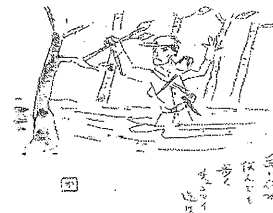
少なくなっていく中、私はマラリアに罹り、動けなくなり、一人取り残されることになりました。雨が降りしきる中、不安と恐怖に苛まれながら3日間じっと快復を願って眠っていました。



暗闇で一晩中雨に打たれて亡くなる方もいました。

その時によく死ななかつたものだと思います。その後、山道だけでなく、敵が襲ってくる可能性があるところは雨で増水した谷川を腰まで水につかりながら歩きました。

約3か月間歩き続け、ようやくタイの国境を越えることができ、日本軍の後方基



昭和二十年六月頃、雨で増水した谷川を腰まで水につかりながら歩きました。

地らしき場所にたどり着きました。その広場のようなどころのいたるところに小さなテントのようなものが点在していました。その一つを覗いてみると、兵隊さんが眠っているようにみえました。顔を近づけてみると、蛆がわいており、口をぱっくり開けて、死んでいました。

タイまでようやくたどり着いた安心感から眠ってしまい、そのまま死んでしまったんだと思い、安心して休むのはまだ早いと、チェンマイを目指して再び歩き出したのです。

この間の出来事は、死ぬ覚悟で行った戦争であったので辛いとは思わなかったです。

戦争が終わり、収容所に入れられ、1946年6月に帰国しました。負傷した腕の後遺症で思うような仕事につくことができずに、とても苦労しましたが、死ぬ思いを何度も経験したので食べるのがようやくであったのですが、何とか乗り切ってきました。



(写真：川尻良雄さん)

傷痍軍人の会に入会し、当時の様子を絵に描いてみないかと誘われ、自分の体験を黙っているより、描くことで伝えることができるならと、筆をとったのが2000年の頃だったと思います。私の作品は戦傷病者史料館「しょうけい館」に展示されています。どんな時代であっても、やっぱり戦争はやらない方がいいと思っています。(聞き取り：平田義)

感想：川尻さんの体験された、戦争当時の様々な状況が複雑に絡み合ったお話に、胸を打たれました。同時に、机上で得る文字や映像の情報が全てではないということを感じました。戦争が起こるとどうなるのか、体験された方のお話から学ぶことは多いです。これからも様々な立場にある方々からお話を聴く機会を積極的に持ち、「命の大切さ・平和」について学び続けたいと思います。(辻)

「平和の敵は無関心」

今年で12回目を迎えた法人の沖縄平和研修。今年には沖縄戦から70年を迎え、また辺野古新基地建設のためのボーリング調査が強行されている最中での研修となりました。私たち一人ひとりが「平和をつくりだす」ために何をなすべきかを問われる機会となりました。参加した愛隣デイの榎井一歩さんのレポートをご一読ください。

沖縄戦の跡地や資料館を巡り戦争の恐ろしさを痛感しました。武力攻撃に恐怖を抱きながら、逃げることも許されないまま「集団自決」をせざるをえなかった当時の状況を想像するだけで胸の詰まる思いでした。現在沖縄には日本にある米軍基地の約74%があることを聞きました。

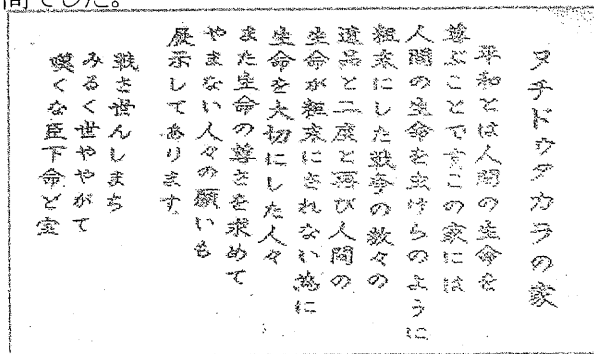
2004年には返還される予定であった、普天間基地も見学しました。街のど真ん中に大きな基地があり、人が入れないようフェンスで仕切られている光景は異様でした。普天間基地移設を理由に現在辺野古新基地建設に向けて準備が進められています。

民宿「てるや」を営み基地建設に対して反対の意思表示をされている照屋さんからお話を聞きました。「ミサイルを3発持つと相手は4発持つとする。そうするとこちらは負けないように5発持つ。基地も同じで基地を作ると張り合って最終的には戦争になる。だから基地は絶対つくられてはいけない」と仰いました。照屋さんのお話を聞きながら最近の政治の動向を考えるにつれ本当に日本が戦争に向かい進んでいるという危機感を持ちました。

伊江島での沖縄戦を知り、「平和の中でこそ福祉は成り立つ」という思いから「土の宿」を主宰されている木村浩子さんのお話も聞きました。「一人一人の命を大切に。次の世代の為にも、考え、勇

気を持って行動してほしい」と仰いました。

自分はこれまで平和についてどんなことを考え行動に起こしてきたか?そんなことを問われた瞬間でした。



(平和資料館、ヌチドゥッカカラの家壁画より)

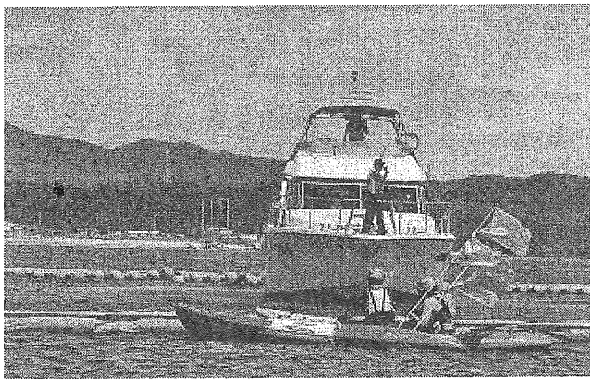
【辺野古の現状・阻止行動参加】

全国から基地建設反対の思い(募金)で購入された船の「不屈」に乗り、金井創船長の操縦で、海上阻止行動に参加しました。

グリーンに染まった辺野古の海は本当に綺麗でした。しばらく進むと船が越えられない程の大きなブイが何万個も並び仕切られていました。工事区域への進入を防ぐ為のフロートです。ブイ一つに15000円がかかっており、その費用は日本の税金で賄われていると聞き驚きました。またフロートが動かないブイの下には10トン~45トンのコンクリートが沈めてられています。海底にあるたくさんのサンゴが、そのコンクリートで押しつぶされているのです。

「不屈」がフロートに近付くにつれ海上保安庁のゴムボートや沖縄防衛局から雇われた警備の船も近付き「ここは立ち入り禁止区域です。速やかに退去して下さい」と言います。こちらの抗議に一切反応することもなく淡々と対応する気持ちの温度差といびつな状況に僕はショックと衝撃で声を出すことすらできませんでした。

こんな綺麗な海や生物を破壊してまで埋め立てる基地って本当に意味があるのか?心の中で何度も感じました。この日もカヌー隊がフロート内に入り抗議行動を展開しましたが、すぐに拘束されてしまいました。(カヌー隊の阻止行動: 辺野古にて)



座り込みテントに常駐されている篠原孝子さんのお話で本来なら2014年に辺野古基地が出来る予定だったが、阻止行動により現在もボーリング調査で止まっていると聞きました。諦めず希望を持って訴えることの大切さと多くの人の思いや頑張りが今に繋がっていると感じました。

辺野古の現状がなぜ本土ではメディアに取り上げられないのか質問しました。「多くの視聴者からの要望がないとメディアもとりあげることが出来ない」との答えでした。本土でも多くの人が訴えればメディアも動くかもしれないと感じました。

最後に、生涯非暴力平和主義を貫かれた阿波根昌鴻さんの信念により設立されたわびあいの里を訪れた際に館長の謝花さんはこう仰いました。「平和の武器は学習で、平和の敵は無関心」

平和というのは命を大切にすることだと思います。これからも社会の動向にアンテナを向けながら自分に出来ることは何かを考え、より多くの人に平和について伝えていきたいと感じました。(榎井一步)

2015年 4.5.6.7月の活動

- 4/7-12 お花見 今年の桜は早咲きでした...
- 5/30 ホテルのタベ 向島中央公園にもホテルが自生!
- 5/31 にっこりフェスティバル
- 6/12 同志社女子高校花の日訪問
素敵なお花と出会いをありがとう!
- 6/22-26 京都ブロック沖縄研修
- 7/5.16.26 喀痰吸引第3号研修

お悔やみ
遊隣時代からの仲間であったYさんが3月に突然天国に旅立たれました。命の尊さを最期の瞬間まで伝え続けてくださったYさん、本当にありがとうございました。どうか天国で見守って下さい。(辻)

詩人 柏木正行さんの
魂に触れる

憲法は死んだ
憲法は死んだ
否
殺されたのだ
康弘が殺したのだ
靖国に眠っている
英機を起こそうとしているのだ
信仰の自由を剥奪し
民主主義を踏み潰そうとして
いるのだ
憲法を殺し
人間を殺そうと企んでいるのだ
康弘は
平和の侵略者だ

SIEA (アジア国際夏期学校)
 濟州島セミナー&タイセミナー 参加者募集中! (興味のある方は下記までご連絡を!)
 TEL : 075-621-3849 FAX:075-621-1579 e-mail : siea@abelia.ocn.ne.jp

